

ベトナム産りゆうがんの生果実の 輸入解禁について

(植物防疫法施行規則の一部改正案及びベトナムから発送され、他の地域を経由しないで輸入されるりゆうがんの生果実の輸入に係る農林水産大臣が定める基準に関する公聴会)

技術説明

令和4年10月

農林水産省

横浜植物防疫所

ベトナム産りゆうがんの生果実について

学名 : *Dimocarpus longan*

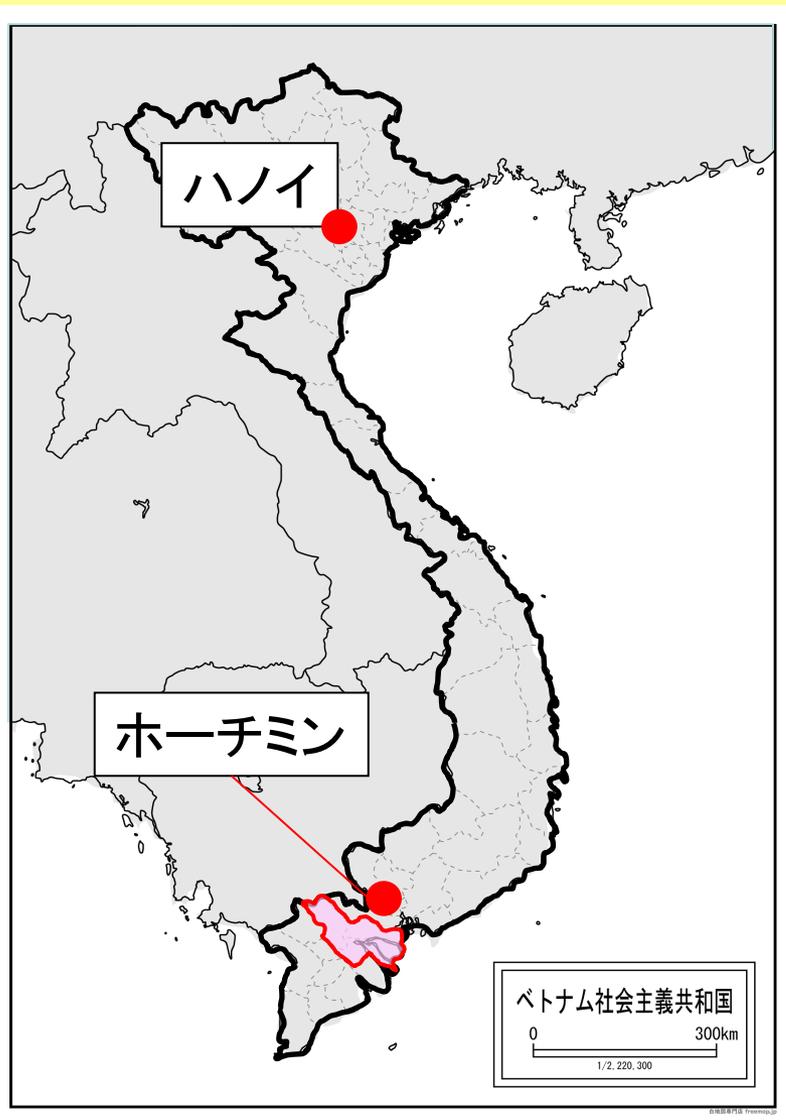
(ムクロジ科ムクロジ属)



- 果実形状 : 小型で球形、
直径2~3cm程度
- 重 量 : 約15g
- 果 皮 : 薄茶色
- 果 肉 : 半透明白色

(出典:ベトナム農業農村開発省)

ベトナムにおけるりゅうがんの生産



■ 生産地域

南部 メコン川デルタ周辺及び
北部 紅河デルタ周辺

■ 収穫時期

周年収穫可能 ピークは:7~9月

■ ベトナムでの生産量

2020年 589,242トン

■ ベトナムからの輸出量

2020年 28,314トン

■ 主な輸出先

中国、米国、豪州、EU

(出典:ベトナム農業農村開発省)

ミカンコミバエ種群について

ミカンコミバエ



体長約7mmの小型のハエの一種で、かんきつ類等の生果実の大害虫として知られている。

この虫が果実に寄生すると腐敗・落果し、ひどい場合には収穫皆無となる。

【発生地域】

ベトナム、中国、台湾、ハワイ等

【寄主植物】

かんきつ類、パパイヤ、りゅうがん等

りゅうがんの生果実の輸入解禁に係る 低温処理殺虫技術の開発

1. 低温感受性比較試験
2. 小規模殺虫試験
3. 大規模殺虫試験

(一部を日本側専門家が現地確認)

寄生果実の作製と低温処理



① 採卵(成虫飼育ケージ)



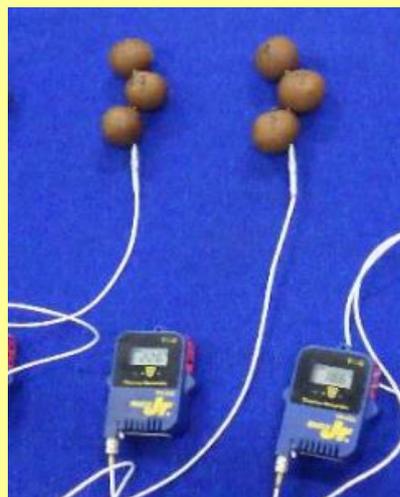
② 容器内壁に産み付けられた卵



③ 果皮を切開し卵を接種



④ 接種部の果皮を戻してシール



⑤ 温度センサーを果実に挿入



⑥ 低温処理

1. 低温感受性比較試験

＜最耐性発育ステージの決定＞

りゅうがんの生果実に寄生したミカンコミバエの各発育ステージを果実温度1.3～1.5°Cで低温処理した時の補正死亡率(%)

ステージ	低温処理日数					
	1日	3日	5日	7日	10日	13日※
卵	42.3	62.9	100	100	100	100
1齢幼虫	13.4	63.8	98.8	100	100	100
2齢幼虫	24.9	70.4	90.9	98.1	100	100
3齢幼虫	27.6	63.8	89.9	97.3	100	100

※13日以降も、15日、17日、20日処理区が設けられており、全ての発育ステージが100%殺虫された。

3齢幼虫を最耐性ステージとして選択

2. 小規模殺虫試験

りゆうがんの生果実に寄生したミカンコミバエの3齢幼虫を100%殺虫する低温処理基準の検討(果実温度1.4°C)

日数	有効供試虫数	生存虫数	補正死亡率 (%)
7日	6,034	15	99.8
9日	6,034	0	100
11日	6,034	0	100
13日	6,034	0	100

※表内の数値は試験2反復分の合計値

3. 大規模殺虫試験

りゅうがんの生果実に寄生したミカンコミバエの3齢幼虫を
100%殺虫する低温処理基準の確立

反復	果実温度	処理期間	有効供試虫数
1	1.37 °C	13 日	14,337
2	1.40 °C	12 日 + 22時間	15,324
3*	1.33 °C	12日 + 23時間	14,556

* 第3反復の一部を日本側専門家が現地確認

3反復の平均温度: 1.37°C 有効供試虫数合計: 44,217頭

ベトナム産りゆうがんの生果実の 消毒処理基準(案)

生果実の中心部が摂氏1.3℃となった後、
引き続き13日間その温度以下で消毒すること